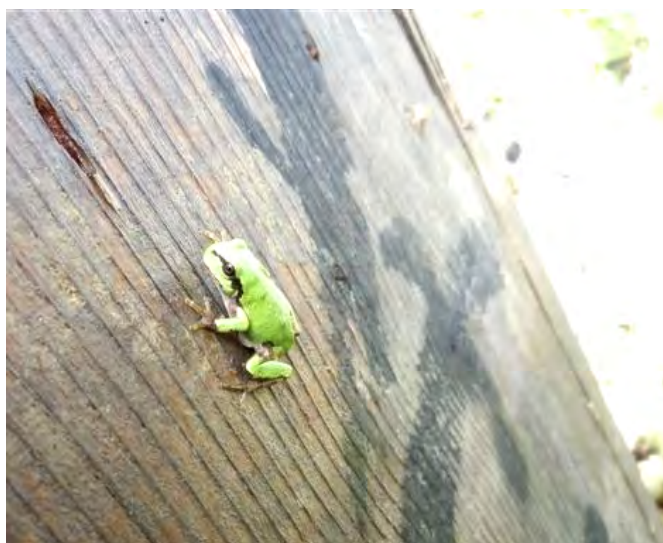


ニホンアマガエル

澄川森林の基地、真ん中の物置の日溜りでたむろしているカナヘビの子どもたちを観察していて、一匹の行方を東側の側面まで追跡していると、草の中からアマガエルが飛び出してきて、立てかけてある板にとりつき登りはじめました。手足の指先が吸盤になっているアマガエルならではの芸当なのです。2014年10月4日11時35分と記録されました。正式和名はニホンアマガエルです。ニホンと頭についていますが、固有種ではなく分布は日本全土の



他に朝鮮半島から中国東部に広がっていますので、結構頑張っているのです。アマガエルの名は雨が降りそうな時に鳴くことからの命名のようです。澄川でも時々グェツ、グェツと連続的に大声で鳴く声が聞こえてきますので居ることは分かっていたのですが、樹上を主な活動場所としているので、しかも緑の葉に紛れる体色からして、お目にかかることは至難なのです。わが故郷九州の水田では畔道などでしばしば出くわしました。内地の田舎では珍しくもない存在でした。体長は2.0~4.5㎝と個体差が2倍以上もあります。この固体は小さい方でした。オスの方がメスより小型がカエルたちの特徴ですから、オスだったのでしょう。子どもの頃よく掴まえたりしていましたが、体表の粘膜には毒が含まれていて傷に付着すると沁みて痛く感じるそうですが、目に付いたりしますと失明することもあるとかですので、掴まえる場合はくれぐれもお気をつけください。

この日は助成していただいているローソンご一行のご来林で、全員雨中作業を覚悟されている



いでたちでした。午前の作業は記念植樹と助成対象のニセアカシヤ退治場所の状況視察をしていただきました。視察中に土砂降りとなりましたが、装備万全、無事終了となりました。湯沢会員がいつもの腕をふるいましてのキノコ汁をすすりつつの昼食をすませましたが、天候不順につき午後のゴミ出しをやむなく中止とし、解散となりました。